



発行 真言宗豊山派 霊松山歎喜院  
金剛寺

〒371-0241 前橋市苗ヶ島町 1147  
TEL 027 (283) 6918 FAX 027 (283) 6815  
<http://www.raijin.com/kongouji/>



# 伝法大会厳修者同期会

正光院 (茨城県坂東市)

住職 下河邊栄淳



私は住職の傍ら、サラリーマン生活を三十七年間勤め、平成十年三月に退職しました。

その年の十月に真言宗豊山派総本山長谷寺で行われた伝法大会(でんぽうだいえ)という、僧侶が僧正の階級に昇進するための修行に参りました。全国から集まった三十四人で行う厳肅なものです。その三十四人の中で得度(出家して僧になる)後の年数が一番長いということで一臈(いちろう)といって厳修者の代表になりました。

いよいよ明日で行が終わるといいう時に志田住職より、「私たちが同じ仏飯を戴いて修行が出来たのも総本山長谷寺の御本尊十一面観世音菩薩のお導きがあったからであ

る。これをご縁に年に一度くらい研修会などを開いて仏縁を深めたいと思うが、どうか」と相談をされ、私も同感でありました。

その夜、志田住職が全員を広間に集め賛同を得、「伝法大会厳修者同期会」を発足させ、翌日我々厳修者は、長谷の観音様に背中を押されるような爽やかな気持ちで下山しました。

第一回同期会は志田住職が地元伊香保町で開催してくださり、次回からは厳修者の各県持ち回りで行うこととし、第二回は福島県、第三回は新潟県・・・第六回は奈良県総本山長谷寺の「だだおし」参拝、第十一回は沖縄県糸満市の沖縄県平和祈念公園にて沖縄戦没者慰霊法要を行い、第二次世界大戦で最後の激戦地となり軍民合わせて約二十四万人余もの尊い人命が失われた地で手を合わせて

きました。第十三回は福島県相馬市で行われ、東日本大震災で多くの犠牲者を出した松川浦大橋のたもとに赴き読経しました。高台にあり難を免れ、一時は二百人以上のお骨を預かっていたという同宗派の撰取院を訪れ法要を行いました。本年も埼玉県の計らいで秩父神社、長瀨ライン下り、国宝「妻沼聖天山歎喜院」を参拝しました。

「光陰矢の如し」と申しますが、あれから十七年が経ちました。しかし、昨日のことのように感じます。なぜなら、毎年親睦を深めているので、事ある毎にお互いの相談に乗ったり、愚痴を言ったりしているからです。かけがえのない出合いを与えてくれた伝法大会という修行に感謝しています。

また、「伝法大会厳修者同期会」を立ち上げてくれた志田住職は厳修者一同感謝しております。今後とも健康に留意され宗派のため、地元地域のために尽力されることを念じております。

合掌





## ご挨拶

櫻井敏道

このたび岩崎和衛前総代の後を受け金剛寺檀徒総代をおおせつかりました櫻井でございます。

これまで、お寺の総代は檀信徒の中の長老が受け持つものとはかり思っておりましたが、こうした重責を負うことになり、自分がすでに後期高齢者であることを改めて思い知らされると同時に、その職責の重大さを痛感しているところでございます。

円義上人により開山された歴史と伝統ある金剛寺は、私達の先祖が、歴代のご住職にひとしくご供養いただいている菩提寺です。

しかし、近年少子化高齢化、核家族化、都市化、人口減少等日本

社会の構造変化により、寺院を取り巻く環境は、ことのほか厳しさを増してきています。こうした時代の変化に対応し、この大切な由緒ある菩提寺を後世にしっかりと引き継いでいくことが私達に課せられた責務であります。

そのためにも洋遠住職をはじめ檀信徒各位のご指導とご協力をいただきながら、微力ではありますが全力を傾注してまいる所存であります。

そして、檀信徒の方々や地域住民の皆様が、心のよりどころとして、また厳かなうちにも明るい、親しみのあるお寺としてお気軽にお立ち寄りいただける金剛寺になって欲しいと念願しております。

何卒よろしくお願い申し上げます。総代就任のご挨拶といたします。



## 金剛寺と出逢って

松本 佳奈子



私は母のお腹の中にいる時から、毎年金剛寺へ拜んでもらいに行きます。お坊さんのたたく力強い太鼓、本堂いっぱい響くお経の声は、何度聞いても感動します。それだけではなく、お坊さんが私たち家族の背中を一人ずつさすっていただき、最後にオンマカキャロニキャソワカと言って、強く背中をたたいてくださいます。その時には、交通安全・勉強・健康の三つを拜んでいただくのですが、お坊さんの手が私の背中に触れたとたん、体中の力がみなぎるような気持ちになるのです。拜んでもらった後は、私たち家族とお坊さんと、お坊さんの奥さんと、お話をします。たまに冗

談を言うお坊さんですが、改めて今自分が生きている環境がどれだけ幸せであるのか、家族という存在がどれほど大きなものなのかを教えてくださいます。お坊さんは毎年のように言ってくださいます。「佳菜子ちゃんにはこんなにすばらしいお父さんとお母さんがいて幸せじゃないか」と。当たり前のことのように思えることが実は一番幸せなのだということを感じました。

私が金剛寺に行ってお坊さんから学ぶことは、当たり前だと思っていることが一番大切であるということでした。毎日家族四人で食卓を囲んでたわいもない話をする。毎日ご飯が食べられること。生活していくなかでたくさんある当たり前のことを幸せなのだと思っ生きていきたいと思っす。また幸せでいられるということは、自分が何人もの人に支えられているということに感謝し、生きていきたいと思っす。



# 宮城中にて

保護司・更生保護女性会と学校との連携事業

## 宮城中学校

◇保護司・更生保護女性会と学校との連携事業

8月27日(水)、宮城地区更生保護団体との連携事業が実施されました。

まず、更生保護女性会から一つひとつ丁寧手作りされた押し花の葉のプレゼントがありました。その後の講演では、前橋市保護司の志田洋遠さんが「どの命も貴重な存在であること」「心に温もりを感じながら生きることの大切さ」「たとえ失敗しても、生き抜くことで感謝を示すのが最大の親孝行であること」「挫折や悔しさを飛び越える力を身に付けてほしい」などを説いてくださいました。

最後に、生活委員長の加藤ジョンが「命の尊さを考えることを人生のテーマにしたいと思います。」と誓いの言葉を述べ、連携事業は締めくくられました。

今後、家庭・地域で宮中生を温かく見守っていただくようお願い申し上げます。その愛情が心豊かな宮城地区を創っていくのではないかと実感しました。

平成二十六年

八月二十七日水曜日

宮城中学校にて

「どの命も貴重な存在であること」・「心に温もりを感じながら生きることの大切さ」・「たとえ失敗しても、生き抜くことで感謝を示すのが最大の親孝行であること」・「挫折や悔しさを飛越える力を身に付けてほしい」など話をしました。講演を聞いての生徒さんの感想(声)を紹介いたします。

今回の志田洋遠さんのお話の中には、私たちは「生かされている」という話がありました。そして私は、両親・家族から大切に「生かされている」のに、自殺などによって、自分の命を絶つという事は、何てもつたいないことなのだろうと思えました。他にも、印象に残った話があります。それは死刑囚の「もし許されるならば、ハエになってでも生きてゆきたい」という言葉です。この話を聞くまでは、「自分は生かされている。」生きるということについてそれほど深く考えることはありませんでした。しかし、この言葉で、この世の中で何よりも、「自分が今生きてる」ということが最も幸せなことなのではないかと考えました。そして、自分に両親・家族、友達などがいてくれることを感謝しながら、強く生きてる。いきいたいと思いました。

女子生徒より

僕は自分の生きる意味について考えたことはありませんでした。考える機会がなかったからです。今回は、人生で初めて「生きる」ことについて深く深く考えた日でした。死刑になってしまった人たちは、人から愛情をあまりもらってない人だと聞きました。そう考えると法律を犯さずに生活できている僕は親をはじめとする、まわりの人たちの愛情があるからこそだと気付くことができました。しかし、僕のまわりには「あまり愛情をうけていないのではなか」という人がいます。そのような人には、僕たちが愛情をあげれば良いと思いました。このようなことを「共存」というのかなと今日思いました。

男子生徒より





# 第六回 真言宗総本山高野山

## 豊山派総本山長谷寺参拝への旅

期日 平成二十六年十一月三日・四日・五日 二泊三日  
参加人数二十九人

心にしみた総本山長谷寺の旅



大嶋 志津代

昨年十一月三日金剛寺御住職就任二十五周年記念総本山長谷寺参拝と高野山の旅に檀家の一員で参加させて頂きました。この日三日は御住職が叙勲を拝受されました「瑞寶雙光章」重ね重ねのお祝いの旅でした。

奈良は四十数年ぶり和歌山県(高野山)は初めてでした。総本山長谷寺の本堂へと続く三百九十九段の登廊が発前から心配でしたが、導かれた様にすんなりと歩くことが出来ました。本堂では導



師様と大勢の職衆の方々の法要を受ける事が出来ました。ここち良いすばらしい一時を体験し心身共に安らかな安堵を感じました。又参拝する先々で御住職のお人柄・御人脈の深さを感じられ一般の旅行ではとても入館や参拝が不可能な処まで見学させて頂きました。長谷寺の本坊においては御住職の志で私達一行は赤い絨毯の上に座り特別なお茶のおもてなしも受けました。おいしかったなア……

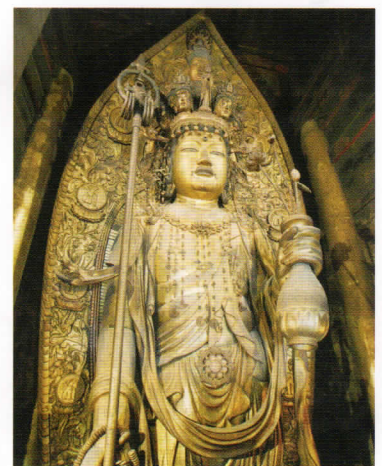


翌日高野山の参拝も滞りなく予定通り済、宿坊宝城院へ、玄関で男性の職員の方の出迎えで案内されました。(いままでの私の旅では着物姿の女性の方の出迎えでした)初めての体験で修行僧の方の給仕でバランスの整った夕食を頂き、ご飯のおかわりはお盆を持った僧侶の方がして下さいました。夕食後はお風呂も九時までの時間内に二回頂き十分温まり、子供の頃親から学んだ「早寝早起き」を思い出しながら眠りに付きました。

早朝六時十五分から朝の勤行も参加出来ました。勤行の行事の中宿坊の御住職のお話を聞かせて頂き、忙しい日々ご先祖に手を合わせるだけで一日が大切に送れるとお言葉を下さいました。早速今朝も心を込めて仏壇に手を合わせ一日の始まりです。

天気にも、同行の三十数名の皆様にも恵まれ、八百七十キに及ぶ二泊三日の思い出深い旅になりました。

皆様有難うございました。合掌





豊山派

志田住職の叙勲祝う  
青少年教育にも期待

群馬県前橋市・金剛寺の志田洋遠住職は同市の行政相談委員を23年間にわたって続けている功績で、昨年、瑞寶「雙光章」を受章した。その「祝う会」が3月29日、市内のホテルで開催され、113人が出席。祝福を受けた志田住職は、「皆さんの協力があればこそ、長く続けていくことができました」と謝辞を述べた。さらに様々な活動を支えてきた妻・房恵さんの「内助の功」に対しては「正直言って（照れくさくて）感謝が一言も言えない」と万感胸に迫りながら、「皆さんのお許しがいただければ、言葉の代わりに（ここで）握手をさせたい」と発



言。万雷の拍手がわき起る中、妻に感謝の思いを伝えた（写真）。来賓が祝辞を述べ、志田住職が行政相談委員として市民の声に真摯に耳を傾けてきた姿

仏教タイムス紙より



長谷寺の俳句

東宮ムツ子

長谷寺の  
回廊のぼり

秋桜

参道の

紅葉美しく  
高野山

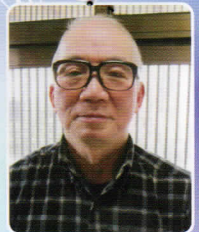
「下山祝」





# 宗派転末記録 その2

金剛寺 責任役員 東宮 惇允



## 金剛寺歴代住職入滅記

世祖 圓義上人 元和 九癸亥年十一月廿九日 當山開基元和元年三月創建  
 二世 清祐 寛文 三癸卯年 七月 三日  
 三世 圓祐 寛文十二壬子年十一月 六日 法流開山 六波羅普門院  
 四世 清照 元禄 七甲戌年 十月 四日  
 五世 清範 元禄 四辛未年十月十 九日 深徳坊  
 前橋藩主 酒井雅樂頭様領内検地の折の本陣を  
 仰せつかる酒井公より表門を寄進される。

六世 清寛

享保 六辛丑年 七月廿七日 中興  
 享保 七年五人組帳・弟子 山秀(赤堀) 探心(尾尾) 道心 清心  
 室沢村七兵衛 半右衛門 当村 甚平 同村 瀧助

享保 十二年五人組帳・弟子 探心(足尾生) 道心二人 圓心 圓清  
 下男四人 当村 平八 馬場村 半右衛門 室沢村 六助

七世 寛海  
 八世 寛淳  
 九世 寛恵  
 十世 智海

明和 五戌子年 正月廿日  
 寛延 二巳巳年 九月廿九日  
 寛政 八丙辰年 四月 七日 本姓 新川村 深沢氏  
 中興 宝暦六年春本堂焼失・宝暦十一辛巳年本堂落成繼て丈室  
 厨修造 安永二癸巳五月傳法會式五十余日執行  
 明和 三年五人組帳・智海(三十八歳) 隠居・寛淳(七十四歳) 弟子泰春(二十三歳)  
 \*出家四人 弟子 密健(二十四歳) 弟子道心 連心(六十四歳)  
 \*道心二人 弟子 道心 一円(四十六歳)

十一世 寛隆  
 十二世 鏡清  
 十三世 義寛  
 十四世\*寛良  
 十五世 寛潮  
 十六世 寛潮  
 十七世\*寛善  
 十八世 寛運

文化 六巳巳年 四月 九日 本姓 馬場村 井上氏  
 寛政 七乙卯年 八月廿日 本姓 苗ヶ島村 石橋氏  
 文政 七甲申年 七月廿一日  
 越後長崎村大福寺へ転任 文政八年  
 文政 十一戌子年八月 朔日 享和元年(文化八年)  
 安政 六巳未年 五月十五日 天保十四年(弘化四年)  
 安政 六年(明治二年) 当国足門村徳昌寺へ転任  
 天保 十五年八月十一日金剛寺徒弟、明治四年五月五日金剛寺住職  
 明治 四年六月廿三日(三十八歳) (大正二癸丑年十月四日  
 大正 二年十月 八日、千葉郡都賀村正善院転住(八十五歳)  
 大正 二年十月 四日 卒

十九世 寛栄  
 二十世 中沢賢済  
 廿世 寛連

〳明治四十一年十一月二十五日  
 実名 齊藤晋教 松山寛運遺弟仮名英丸 法名 寛連  
 大正 三年十二月二十五日任命(四十一歳) 大正七年春寛運を晋教に改め

齊藤晋教 昭和 三年二月十九日・住職晋教師退院  
 昭和 三年七月三十日、仮晋山式・昭和四年(廿二歳)  
 昭和 十八年(廿三歳) 瀬下宥弘  
 昭和 二十七年十一月二十八日(昭和六十三年十二月三十日 廿四歳) 志田賢尚  
 昭和 五十五年一月十八日(平成元年一月二十三日(副住職) 廿五歳) 志田洋遠  
 平成 元年一月二十三日(住職)

金剛寺十八世の住職に寛運(本姓 松山氏) と言う方がおられました。天保十五年八月十一日に金剛寺徒弟となり。明治四年、十七世に寛善師が群馬町足門の徳昌寺へ転任し、十八世に就任します。この時三十八歳でした。  
 大正 二年十月に退任し千葉郡都賀村正善院(現千葉市)へ転任します(八十五歳)  
 大正 二年十月四日に亡くなられ八日に葬儀(雨)  
 廿世の寛連師は寛運師の実の弟で仮名を英丸と言ひ、法名は寛連。  
 大正 三年十二月二十五日(四十一歳)に金剛寺住職に就任します。  
 大正 七年春に寛運を実名の齊藤晋教に改めます。

大正六年五月九日、齊藤晋教師にお子様がお生まれになりますが、その男の子の命名のメモ書きが当時の檀徒総代の手文庫に残っておりまして書かせて貰います。

眞海 採用  
 一、眞は弘法大師幼名(眞魚)の頭字、又は、眞言の眞なり、  
 同師晩年御名(空海)の尾字。  
 海は金剛寺廿世中最高徳なる名僧智識の寛海、智海の尾字。  
 二、聖は当院に因し貴き文字なり、寛は当院住職数代用ひたる文字なり。

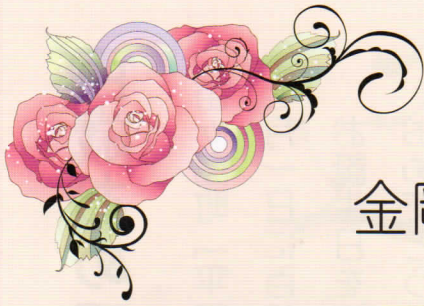
弘法大師高弟七人中眞の字を付けたるは以下の五人。  
 眞清  
 眞雅  
 眞紹  
 眞然  
 眞暁

金剛寺住職中寛の字を付けたるは以下の十二人

清寛 六世  
 寛海 七世  
 寛淳 八世  
 寛恵 九世  
 寛隆 十一世  
 義寛 十三世  
 寛良 十四世  
 寛林 十五世  
 寛潮 十六世







# 金剛寺と檀家さんの交流

平成二十五年 一月二十五日 (一)

宗重郎 七回忌 宝壽院篤宗仏念居士位

天竺 寒い日 風も強かた 寺の庭ですってんころりん

あふむけにころんひしまつた けいをしくてよふつた

お寺えの片そ下ぎたのころん 有難い事

読経のあと たいこの法養ひあつた 静かな寺の

空気の仲 静と勤のつらなり 一回り成り立ろひの

ような響き やはり人間静と勤かたけれは

たふなりと思ふ 夜は静かにやすみ 心は一生懸命

高きくこ水かきまきいる事と思つた

一住の 静と勤との

つらなり

今日も明けたり

有難う ございませう

良

井上 良さんからの手紙です。



# 百歳おめでとう

苗ヶ島町「平田 ひさ」さんが

七月一日に百歳の

お誕生日を迎えました。

おめでとございます。



(ひ孫と一緒に)

## 住職からのおすすめ本

|     |         |
|-----|---------|
| 題名  | 幕末点猫    |
| 著者  | 有本 佳央   |
| 発行所 | 文藝社     |
| 定価  | 1600円＋税 |
| 題名  | ほんとうの高校 |
| 著者  | 柳下 要司郎  |
| 発行所 | ゴマブックス  |
| 定価  | 1238円＋税 |
| 題名  | 修身      |
| 著者  | 森 信三    |
| 発行所 | 致知出版社   |
| 定価  | 2300円＋税 |



## 編集後記

平成十六年に、創刊号を出させていた  
いて、早いもので今回で第十号を発刊さ  
せて頂きます。皆様のご理解・ご協力に唯々  
感謝申し上げます。

昨年は、『永代供養塔開眼法要』そして  
『総本山長谷寺・高野山参拝』を企画しま  
したところ、当山役員の方々及び檀信徒各  
位の積極的な御協力を頂き無事に済ませ  
る事が出来ました事を心から感謝申し上げま  
す。『金剛寺ホームページ』も、四六、一  
二〇名以上のアクセスがあり、九月頃更新  
いたすべく準備を進めておりますので御期  
待下さい。今月号表紙は、先輩として尊敬  
する下河邊栄淳師（茨城県正光院住職）  
に、御執筆を御願いさせて頂きました。  
又、本年四月総代に就任していただきまし  
た、櫻井 敏道様にご挨拶を又、前号に引  
き続いて「宗派転末記録」を東宮 惇允  
様・『総本山長谷寺の旅』と題して大嶋志  
津代様・『金剛寺に行つて』と題して、松  
本佳菜子様にご投稿戴きました。この場を借  
りて心より厚く感謝申し上げます。

昨年宮城中学校のお計らいで、講話の時  
間をいただきました。その折に生徒の皆様  
から感想文を戴きました中からお二人の  
『声』を掲載させて頂きました。人生の先  
輩で有るお二人を紹介させて頂きたくま  
す。お一人は七月一日に『百歳』をお迎え  
になられました平田 ひさ様。心からお祝  
い申し上げます。二人めは井上 良様のお  
手紙を紹介させて頂きます。皆様の御縁を  
いただきながら、寺報『道』をお届けさせ  
て頂きます。

合 掌 (住職 記)